

多読レベル 2

ふじ屋旅館のご主人はあることから
東海道一のりっぱな人になりました。
旅館はいつもお客さんがたくさん来る
ようになりました。

何があったのでしょうか？



「正直五兵衛」

しょうじきごへい

『湖西風土記文庫 語り継ぐ』より

語り継ぎ 1

もくてき しょうじき い
目的：正直に生きる。

指導者の皆さんへ

📖 ジャボラNPO リライト本の目的

- ①多読による、学習者の自己学習の推進。
- ②外国人が理解しにくい日本人の心情や考え方、日本文化を学んでもらう。

📖 『多読表』を書く

これは、学習者の振り返り記録です。(ポートフォリオ)別紙

- ①何冊読んだのか(多読)記録します。
- ②おもしろさを三段階で評価します。(😊😐😞)
- ③感想のひとこと書きができます。

多読表

【○ぜんぶよんだ △ぜんぶよまなかった】

【😊おもしろかった 😐まあまあ 😞あまりおもしろくなかった】

レベル	Vol	タイトル	読む 読む 月 日	○△	感想	😊😐😞
ジャボラ オリジナル	0	「いれて」				
	0	「わすれもの」				
	1	笠地蔵 <small>かさじぞう</small>				
	1	舌切り雀 <small>しづりすずめ</small>				
	2	明日は遠足 <small>あした 遠足</small>				
	2	お母さんへンシン 〜わたしは、時間を守るわよ！ <small>おははさん へんしん</small>				
オリジナル	2	桶むらの火 <small>おけむらのひ</small>				
	2	正直五兵衛 <small>ちかまご 五兵衛</small>				

これは、今いまから約やく400年前ねんまえの江戸えど（徳川とくがわ）時代じだい（一六〇八せんろっぴやくはち）一八六八せんはつびやくくじゅうはちねん年）のお話はなしです。

東京とうきょうから、京都きょうとまでの道みちを東海道とうかいどうと言いいました。

東海道とうかいどうには、53の宿場しゆくばがありました。

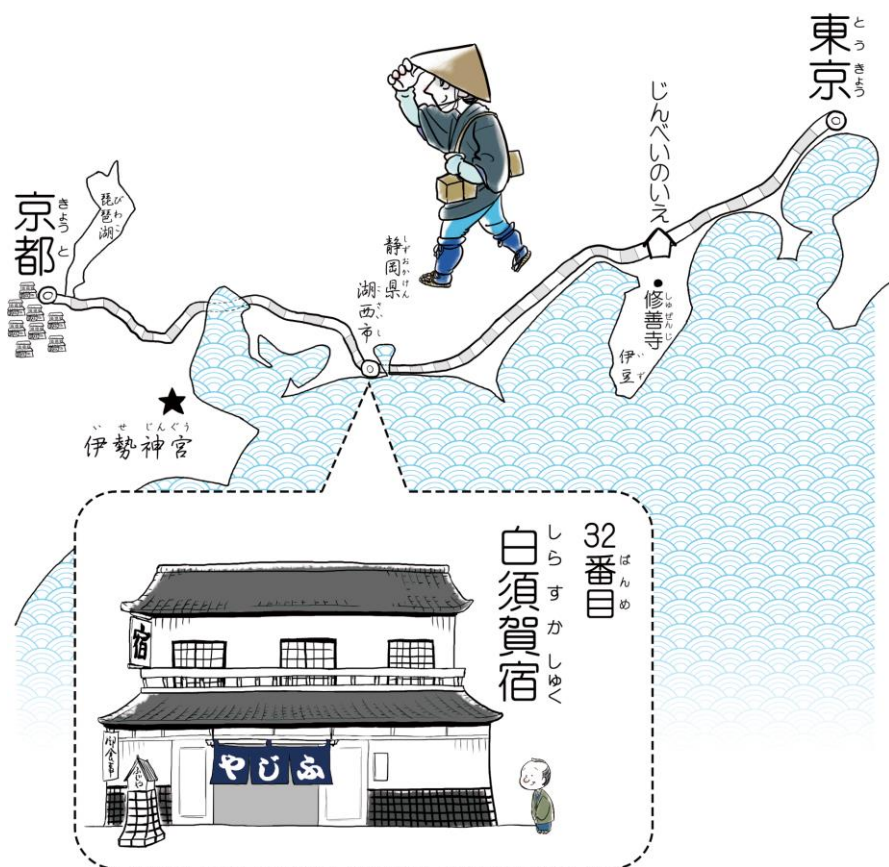
宿場しゆくばは、旅館りょかんがたくさんあるところところです。

旅館りょかんは、旅たびをする人ひとが泊とまるところところです。

昔むかしは、飛行機ひこうきも電車でんしゃも車くるまもありませんでした。

人々ひとびとは、歩あるいて旅たびをしていました。

とう か い どう
東 海 道



しずおかけん　こさいし　しらすか
静岡県の湖西市の白須賀に「ふじ屋旅館」がありました。

にし　ひがし　たびびと
西や東からの旅人ですごくにぎやかでした。

しらすかやど　とうきよう　かぞ　ばんめ　しゆくば
『白須賀宿』は、東京から数えて32番目の宿場でした。

やりよかん　しゅじん　なまえ　ごへい
ふじ屋旅館の主人の名前は、五兵衛です。

ひ　じんべい　とま
ある日のことでした。甚兵衛さんが泊まりました。

じんべい　いず　しゅぜんじむら　す
甚兵衛さんは、伊豆の修善寺村に住んでいました。

伊勢神社いせじんじやに行く途中い とちゆうにこの旅館りよかんに泊まりました。

白須賀しらすかから伊勢いせまでは、あと約200kmやくあります。

伊勢神社いせじんじやは、日本にほんの有名な神様ゆうめい かみさまがいるところです。

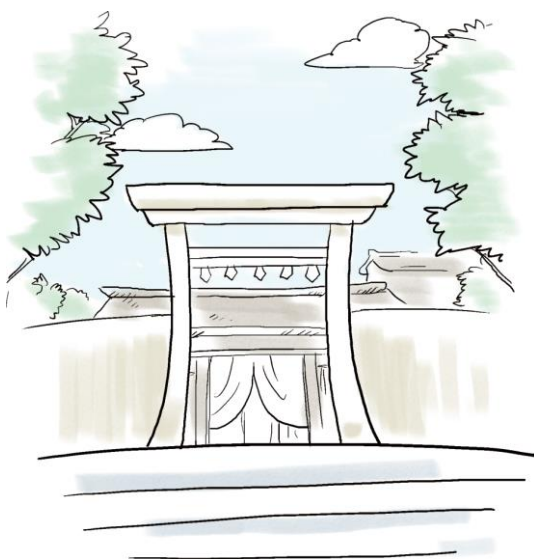
みんなが一生いっしょうに一度行きたいと思おもう場所ばしょです。

そこに行くいには、たくさんのお金かねと

日ひにちがかります。

そのために、みんなは一生懸命いっしょうけんめい働いて

たくさんのお金かねを貯めたました。



伊勢神社

甚兵衛じんべいさんは、次つぎの朝あさ、急いそいで伊勢神社いせじんじゃへ向むかかって
出でていきました。

その後ご、お手伝いてつだのつるが、部屋へやを掃除そうじしていると、
布団ふとんの下したから重おもいお金入れかねいがででてきました。

「あつ、お客きやくさまが忘わすれた。」

つるは、びっくりして、いそいで

五兵衛ごへいのところに

持もっていきました。



「何、お客様が忘れた」
なに きやくさま わす

「はい、あの甚兵衛さんの部屋から」
じんべい へや

「つる、正直に言ってくれてありがとう。」
しょうじき い

こりやたいへんだ。たくさん、お金がはいっているな。
かね

きつとお客さんはこまっているだろう。
きやく

よし、おれが持って行こう。
も い

「でも、もう2時間もたっていますよ。」
じかん

「なあに、走ればすぐ追いつく。急いで追いかけよう。」
はし お いそ お

五兵衛はお金入れをもって、駆け出しました。
ごへい かねい かけだ



そして20キロ走って、やっと甚兵衛さんの

後ろすがた
姿が見えました。」

五兵衛は、はあはあ言いながら

「お客様 お客様」

と声をかけました。



甚兵衛「え 私？ふじや旅館のご主人、そんなに急いで何か用ですか？」

五兵衛「何かじゃありません。これを忘れていましたよ。」

甚兵衛「えっ それは私のお金入れです。」

五兵衛「忘れたので、届けに来ました。」

甚兵衛「まあまあ、ありがとうございます。」

このお金がなかったら、この先、宿のお金も払えません。食べ物を買うこともできません。伊勢神社まで行くこともできませんでした。」

五兵衛「さあ どうぞ 受け取ってください。」

甚兵衛「こんなに遠くまで届けてくれて、本当にありがとうございます。」

甚兵衛は、うれしくて涙がこぼれてとまりませんでした。

甚兵衛「では、お礼にこのお金を受けてください。」

そういってお金入れの中から、小判を出しました。

ところが、五兵衛は大きく手を振って

「いえ いえ お金はいりません。」

これはみんなあなたのものです。

おれ^{れい}をもらうくらいなら、

持^もつては来^きません。

どうぞ全^{ぜん}部^ぶ受^うけ取^とってください。」

と受^うけ取^とりませんでした。

それで、甚^{じん}兵^{べい}衛^いさんは

ごへい^{ごへい}わか^{わか}五^ご兵^{べい}衛^いに別^{わか}れをい^いい、

そのま^まま旅^{たび}を続^{つづ}けました。



そして、一か月後、甚兵衛さんは

伊勢神社からの帰りにまた、ふじ

や旅館に泊まりました。

そして、もう一度お礼にお金を出

しましたが、五兵衛は受け取りま

せんでした。



甚兵衛じんべいさんは、正直しょうじきな五兵衛ごへえに感心かんしんして、伊豆いずの家いえに帰かってから、多くおほの人にひと

「白須賀しらすかには正直しょうじきな人ひとがいる。」

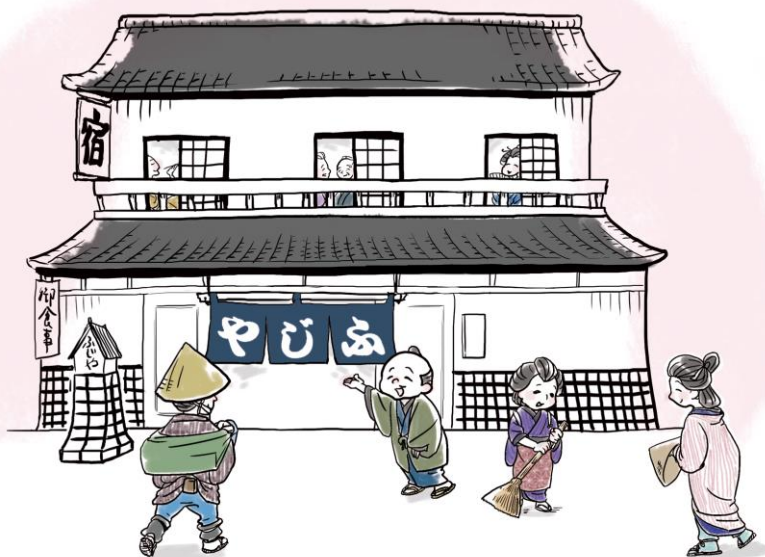
と話はなしました。

それを聞きいた人ひとが、また他ほかの人ひとにも知しらせました。

そうしたことことから、このことことは多くおほの人ひとに知しられました。

それが、徳川幕府とくがわばくふの人ひとの耳みみに入はいって幕府ばくふから褒ほめめられました。

ごへい どうかいどう
五兵衛は、東海道にあるたくさんりよかんの旅館りよかんの
なかで、一番りっばな人いちばんになりました。
そして、ふじや旅館りよかんは、たくさんのお客きやくさ
んが来きました。



【レベルについて ～大人編～】

- ◆本書は、NPO多言語多読監修「にほんご多読ボックス」(大修館書店)のレベルに基づいて作成されています。
- ◆学習者がレベルに応じて、楽にたくさん読めるように、語彙や文法を制限してあります。
- ◆下の表が、「にほんご多読ボックス」のレベルの詳細です。

レベル	語彙	字数/1 話	主な文法項目
0 入門	350	～400	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
1 初級前半	350	400 ～1500	現在形、過去形、疑問詞、～たい など ※基本的に「です・ます体」を使っています。
2 初級後半	500	1500 ～3000	辞書形、て形、ない形、た形、連体修飾、～と(条件)、～から(理由)、～なる、～のだ など
3 初中級	800	2500 ～6000	可能形、命令形、受身形、意向形、～とき、～たら・ば・なら、～そう(状態)、～よう(推量・比喩)、複合動詞 など
4 中級	1300	5000 ～15000	使役形、使役受身形、～そう(伝聞)、～らしい、～はず、～もの、～ようにする／なる、ことにする／なる など
5 中上級	2000	8000 ～25000	機能語・複合語・慣用表現・敬語など 例) ～につれて、～わけにはいかない、切り開く／召し上がる、伺う

◎NPO多言語多読については、ホームページをご覧ください。

<http://tadoku.org/> (「NPO多言語多読」でも検索できます。)

挿絵：黒瀬 多喜代

簡約・監修：ジャボラ NPO

